

8月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

2年8月のD I 値は8指標中、5指標が上昇。依然大きくマイナスに変わりないが、6月以降改善傾向が窺える。また「売上高」「販売価格」については下落。「雇用人員」については横這いとなった。

2. 県内中小企業の景気の現状

生コンクリート業では出荷量が好調であり、家電製品卸売業においてもステイホームや猛暑により季節商品の動きが堅調であった様子。また貨物運送業でも食品や宅配関連の家庭内需要の高まりにより荷動きが増加したとの明るい報告も寄せられた。

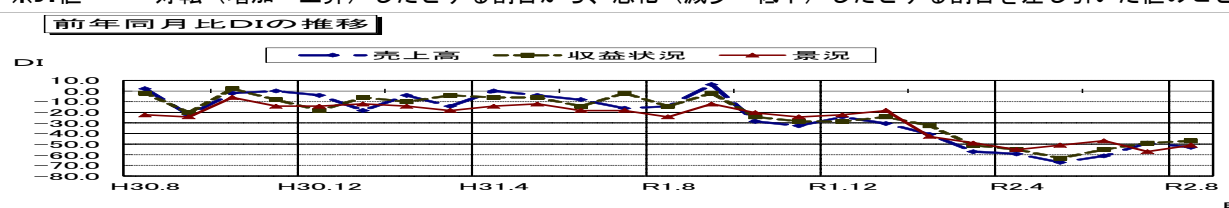
一方、依然として続く原材料高や一時期値下がり傾向にあった燃料価格の上昇に加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声が多く業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R1 8月	9月	10月	11月	12月	R2 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比 増減
景況	-24.5	-12.2	-20.4	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	6.1
売上高	-14.3	6.1	-28.6	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-4.1
収益状況	-14.3	-2.0	-24.5	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	2.1
販売価格	6.1	12.2	8.2	10.2	10.2	12.2	8.2	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-6.1
取引条件	-8.2	-6.1	-6.1	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	4.0
資金繰り	-10.2	-4.1	-12.2	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	10.2
設備操業度	-2.0	0.0	-8.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	4.1
雇用人員	-2.0	-2.0	-6.1	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は91.7%出荷量は96.3%となった。みその生産量は上昇、出荷量は下降した。コロナの影響としてメーカーの対象とするマーケットによって明暗が分かれている家庭内調理の機会拡大は増加、一方で外食、観光関連の大幅な落ち込みが発生した。全体的に消費の沈滞傾向は強まり今後一層厳しい状態となっている。
2. 漬物・前月同様、漬物製造業者の業績の改善が見られない。農家では瓜の収穫も終わった。猛暑により実習生は午後から仕事を休んでいる

<繊維・同製品>

3. 縫製・引き続き新型コロナウイルスの影響は現在のところ弊社には特筆する事項がないものの、業界の景気が冷え込む心配が感じ取られる。製造業の中でも繊維工業は景気回復が遅いと言われているので、不安感が広がっている。景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業体力堅めに注力している。生産性については、不足工程では派遣を投入して生産数量に対処、設備面では順次進めているもののコロナ影響で控え感がまだ残る。8月は生産数量は不変。採用については、昨年と比べると求職者が多い傾向。
4. 縫製・新型コロナウイルス感染症の景気への影響。

<木材・木製品>

5. 製材・住宅関係の着工数が落ち込んでおり全体的には低調であるが、取引先の業態によっては堅調な事業所も見られる。
6. 木材・現在のように、新型コロナウイルス感染症のワクチンの生産が困難で、今の状態に合わせた生活が通常になってしまうと、来る9月30日に切れる国の雇用調整助成金を目当てに休業している中小企業が非常に多い中、このまま会社の存続をあきらめたり、つぶれたりすると職に就けない多くの労働者が巷に溢れる事になりかねない。
7. 木材・原木丸太の入荷は多少回復し、取扱数量も前年対比プラス1%まで回復。金額の方はマイナス、今後も丸太の数量を期待し売っていく。

<印刷>

8. 印刷・もともと8月は休みも多く売上が上がらない月である。さらに今年はコロナ禍で、講演会や催し、イベントもなかった影響が売上に大きく響いている。9月もさらなる落ち込みが予想される。もはや既存の延長線上ではなく、ウイズコロナにおける顧客の価値観の変化に合わせた対応と抜本的な変化が必要である。
9. 印刷・もともと8月は、業績的にあまりいい月ではないが、新型コロナウイルスの影響もあり更に悪い月になった。阿波踊りをはじめイベント関連がことごとく中止になった影響もあり、前年対比10%~40%ダウンが続いて非常に厳しい状況である。営業面に関しても新規獲得のための動きが全く出来ず、またお客様もコロナの影響を受け、経費の見直しのため印刷物の仕様や数量の変更の相談がいくつが出てきている。

<窯業・土石製品>

10. 生コン・8月は昨年同月と比較して約4割増加。この時期お盆休みの影響で毎年出荷量は低調だが、前半特需工事の舗装や災害復旧工事で低迷していた工場の稼働率が上がったこともあり、昨年同月よりは出荷量は増加した。
11. 生コン・8月の出荷数量は、対前年同月比12%増であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官工事と併せて民間工事（大手日亜化学等設備新設工事）の新規発注により、夏場にもかかわらず結果として数量の増加に影響している。懸念事項としては、依然として運転手の高齢化と人材不足が深刻の問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄鋼・依然として、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部売上の減少、設備操業度の低下がみられるなど、厳しい状況が続いているところである。引き続き、影響の長期化が懸念され、今後の景気動向が注視されるところであり、早期の景気回復が期待される。
13. ステンレス・新型コロナウイルスへの感染予防対策を実施しながら、経済活動の本格化に向けて対応を実施している。海外での営業活動についても、現地での隔離免除措置等を利用して一部の地域への渡航を再開したが、帰国後の隔離措置の対応に問題がある。

<一般機器>

14. 機械金属・新型コロナウイルス感染症の影響が依然として継続しており、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに、かなりの組合員に減少傾向が見られ、さらなる景況感の悪化が感じられる。加えて、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、直面する経営上の課題として見受けられ、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧卸・販売不振による流通在庫の過多により市場価格が低下。
16. 各種商品卸・新型コロナウイルス感染症の影響によるステイホームと猛暑のおかげで売上高は維持できた。(家電卸)

<小売業>

17. ショッピングセンター・8月の売上高の前年対比は全店計89.9%(既存店90.9%)、客数84.7%(既存店86.1%)だった。8月は改装のため、7月中旬に2店舗、8月初旬に2店舗、中旬に1店舗が休業になった状況での数字で、営業店舗がかなり減っていますので致し方ないと思う。また売場面積が半分以下になっている店舗もある。阿南市では毎日のようにカラオケ喫茶でのコロナ感染者が確認されているが、売上にどれだけ影響を及ぼしているかは不明だ。ただし4月~7月の間好調だった食品関係の店舗(スーパー・精肉店・青果店)の売上が悪くなっている。9月中旬には、5店舗が第1弾としてリニューアルオープン予定なので、多少は好転すると思う。
18. 量小売業・阿波踊りもなく、帰省も少なかったせいか営業用と一般家庭の仕事が少なかった。助成金のリフォーム仕事で見積もりは出しているのに、期待している。
19. 機械器具・コロナの影響で生産遅れが始まりだした。今後の動向に注目したい。
20. 各種商品小売業・コロナ禍の恩恵を受ける特定の業種以外は、コロナの影響で恒例のイベント(阿波踊りなど)も自粛中止となり、集客を望めない異例の厳しさとなった。

<商店街>

21. 徳島市・新型コロナウイルスの影響で阿波踊りが中止となったため、飲食店をはじめ各店舗で売上が激減した。8月下旬を休む店舗もあった。
22. 徳島市・連日の猛暑と徳島県でコロナ感染者が増えている為、人の出が悪い。阿波踊りも中止となり、商店街は閑散としている。アミコはそごう閉店セールのお陰で来客数は多い。
23. 阿南市・コロナの影響で客足減少。
24. 鳴門市・毎年、阿波おどりの期間はあまり売り上げは見込めないが、今年は阿波おどりが中止のため売り出し広告を入れてみたら、お客様の出入りは多くあった。(家具業界)

<サービス業>

25. 土木建築業・徳島河川国道事務所の令和2年度の去年との比較については、河川は前年度に比べ、改修事業費が約85%になり、業務量も去年より少なくなったと思われる。道路は前年度に比べ新直轄費が85%と減になったが、一般道の事業費が新直轄の減額分増える。交通対策課は無電柱化事業が去年より3倍になり、ｲﾝﾌﾗ（NTT、水道、電力、ガス等）の調整が大変になっている。道路管理課も去年に比べ、1.25倍の事業費（橋梁補修・耐震・補強）が多く発注され、忙しい。徳島事務所全体では、去年に比べ、20億増が予想され、忙しくなるのでは？コロナ対策で6月から、通常に在宅勤務を取り入れた変則シフトで、業務を進めているが、働き方改革との兼ね合いで、業務効率は落ちている。組合は契約人数12名のところ、16名担当技術者を配置し、（一般かぜ）発熱等の際、様子見の休暇が増えるので、増員し多少でも業務に支障の無いようにしている。8月の動向については、工務課は新直轄の工事費は減となったが、業務自体は工事の分割発注等があり、件数としては去年と変わらない、一般改築工事が増えたため担当箇所（新直轄以外の一般道）により忙しくなったのでは？道路管理課は橋梁補修等が去年より多く発注するため、当該業務は忙しくしている。交通対策課は共同溝の整備事業が多く予定されているのでそれなりに忙しい。3課発注工事も、条件の良い工事は受注業者が入札に参加してくれるが、ちょっとでも条件に問題があれば、業者は入札に参加しないので不調になる。工事が徳島河川国道事務所内だけでなく、那賀川河川事務所においても何件か不調となっている。受注業者の人員不足（直接作業員、現場技術者）による要因と、働き方改革による、作業の制約、下請け費用の増加等〃で徳島県内の工事はある一定量以上の作業量は無理な気がする。
26. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-24.4%の1,094台、中古車は7.9%の46台、合計では-17.0%の1,556台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-4.9%の966台、中古車-4.0%の381台、合計は-4.7%の1,347台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-11.7%の2,903台と減少。登録車の中古車販売台数以外は、前年度より下回る結果となった。8月は毎年販売台数の落ち込む時ではあるが、特に登録車の新車販売台数は24.4%マイナスという大きな落ち込み、全体では11.7%減となった。収益状況の目安となる継続台数の台数は、登録車は3.4%減、軽自動車は前年度とほぼ変わらず。こちらも落ち込む時期であるので、来月以降期待したい。
27. 旅行業・7月に少し動きが出てきたと思ったのだが、8月に入りコロナ感染者数が増えたこともあり、また低迷状態に逆戻りした感じた。
28. 広告業・売上高、収益状況が減少している原因は、やはりイベント関係が無くなった為。8月は本来阿波踊りがあり、安定した売上高があったものがなくなってしまったから。
29. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R1年・793円）。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が徐々に現れてきており、現下の情勢を踏まえた当面の改定のあり方を注視しているところだ。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応等多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が長期に及んでいるホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などに影響があ

り、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきた。また、病院や高齢者利用施設等においては、設置者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行するとともに、これらの業務従事者に係る「慰労金交付事業」について関係者と連携し、申請事務の進捗を図っているところだ。全体としてみると、8月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定して事業活動に当たっているところだ。

<建設業>

30. 建設業・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、民間建築工事が減少している。公共工事は、対前年比増加している。県内に新型コロナウイルス感染症の発症が増えており、各工事現場におけるコロナ対策が重要になってくる。
31. 電気工事業・新設住宅口数は144件であり、対前年比77.0%と減少した。
32. 板金工事業・今月は新築住宅の発注はコロナの影響もなく通常に戻りつつある。先月の長雨の影響もあり、少し忙しいが非常事態宣言のときに集客が出来ていないため、そろそろ影響が出てくるかもしれない。

33. 鉄骨・鉄筋工事業・若干操業度が低下している工場があるものの、前月とほぼ変わらない。

<運輸業>

34. 貨物運送業・今年は、新型コロナウイルスの影響及びお盆休暇による実働日数の減少により取扱高は大幅に減少した。一方、軽油単価は5月以降、4ヵ月連続の約13円の値上りとなり新型コロナウイルスの影響とダブルパンチ状況で厳しい経営が強いられている。
35. 貨物運送業・宅配便では例年8月の時期にはスーツケース等の帰省荷物が多いが、今年は新型コロナウイルスの影響で帰省をやめた人が多かったのを反映して、スーツケース等は少なく、代わりに食品等を送る荷物が増えたとのこと。長距離輸送の帰り便は激減したままの状態、運送事業者への影響は甚大である。家庭での需要が増えた冷凍食品や宅配業は荷物が増えたようだが、自動車部品や製紙原料、飲料関係の落ち込みは、まだ回復していない。